問 203 骨粗しょう症とその治療に関する記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

a 骨の強度は、主に骨量（骨密度）に依存する。
b 男性は、女性よりも骨粗しょう症を発症しやすい。
c 骨粗しょう症の骨折好発部位は、椎骨と大腿骨頸部である。
d 骨粗しょう症の治療には、ビスホスホネート製剤が有効である。
e 閉経後骨粗しょう症の治療には、エストロゲン製剤は用いられない。

1（a、b、c）　**2**（a、b、e）　**3**（a、c、d）
4（b、d、e）　**5**（c、d、e）

Approach

骨粗しょう症とその治療に関する問題。

Explanation

a ○　骨密度減少は、軽微な外力で骨折をきたす（脆弱性骨折）。

b ×　**女性の有病率は男性の 2 倍以上である**。

c ○　骨折好発部位は、椎体、橈骨遠位端、上腕骨近位端、大腿骨頸部などである。予防すべき骨折は、閉経後は主に脊椎椎体骨折であるが、65 歳ないし 70 歳以降では大腿骨頸部骨折である。

d ○　ビスホスホネート系薬物の作用メカニズムは、主として破骨細胞による骨吸収抑制である。ヒドロキシアパタイト（骨の無機質の主成分）に高い親和性を示し、ヒドロキシアパタイト結晶の形成過程を抑制する。

e ×　閉経直後で更年期障害を伴っている時期の骨量減少予防・治療には**ホルモン補充療法**（HRT）がよい適応であるが、使用に当たっては、米国での大規模臨床研究でエストロゲンによる**乳がん発生率増加が報告されている**ことを念頭に置く必要がある。

Ans. **3**

Point

骨粗しょう症は、骨折リスクを増すような骨強度上の問題を有している人に起こる骨格の疾患で、**骨密度が若年成人平均値（YAM）の 70 %未満**を骨粗しょう症と診断する。原発性骨粗しょう症のなかでも閉経後の女性にみられる閉経後骨粗しょう症と、 70 歳以上の高齢者にみられる老人性骨粗しょう症とでは、病態に若干の相違がみられる。